



徳島大大学院
土井 俊夫教授

四国健康七

食事、薬物療法で進展予防 慢性腎臓病と糖尿病

腎臓は人が生きていく上で重要な働きをしています。それは体の体液(水や電解質)を一定にするよう働いたり、体の中でできた老廃物を尿として出し、血圧を調節したり、貧血を制御したり多岐にわたって生体で重要な働きをします。

腎臓は人が生きていく上で重要な働きをします。しかし、食事療法をはじめ薬物療法で進展予防が可能なようになってきています。従って、この時期での治療は腎不全対策で非常に重要であります。また、もう一つの重要なこととして、CKDは腎不全のみならず心臓病や脳卒中になる危険が増すとされています。

析療法が必要となる
ことがあります。
この病態であるCKDは腎炎や糖尿病などいろいろな疾患で起りますが、それら疾患に特有な治療と共通の病態に対する治療との両方が

腎臓病で重要な病態はこれらの腎臓の働きが落ちていくことです。腎臓の働きの低下が進行し、おおむね10%以下になると血液透析療法などの治療が必要となります。毎年この透析療法などが必要とされる患者さんが急激に増えて、30万人近くの方がおられます。

この腎不全の予備群として慢性腎臓病(CKD)が注目されています。高齢者では30~40%の方がCKDであり、その対策が全国規模で必要です。腎臓病は自覚症状がなからず、気がつかないまま病気が進行してしまい、気づいたときには透

じつかない間に腎臓病が進展することも多く存在します。従って、糖尿病性腎症を早期に診断し治療することは我が国における腎不全患者の増加抑制にとって最も重要な課題です。

当科の研究課題はその糖尿病性腎症の病態解明と診断および治療法の開発です。我々は診療・研究に加え、専門医の育成を行い、地域医療の連携の構築を最優先課題として取り組んでいます。これらの活動が我が国の医療の未来に貢献できることを願っています。

慢性腎臓病(CKD)が注目されています。高齢者では30~40%の方がCKDであり、その対策が全国規模で必要です。腎臓病は自覚症状がなからず、気がつかないまま病気が進行してしまい、気づいたときには透